

# 支える人を支える 京都の 福祉

2024  
**1** 月号  
no.611

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



●今月の「ふくしびと」は山崎史陽さん ▼11ページ

●京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶 ▼2ページ

京都府知事 年頭挨拶 ▼2ページ

🌱新年あけましておめでとうござい  
ます。

🌱年末年始を迎える中で、一般社団  
法人ゆめさぼ代表の田中れいかさん  
のお話を思い出していました。田中  
さんは児童養護施設で育った経験か  
ら、親と離れて暮らす子どもを支援  
されています。ご自身の施設退所後  
を振り返り「年末年始に親元へ帰省  
する友人をうらやましく思いながら  
自分には帰る場所がない。一人で正  
月や誕生日を過ごすさみしさ、孤独  
を想像してほしい」という語りかけ  
に胸がしめつけられました。

🌱かつて、歌人の俵万智さんは共同  
募金のポスターで『寒いね』と話  
しかければ『寒いね』と答える人の  
いるあたたかさ」と詠みました。20  
年以上前の歌ですが、短い会話でも  
一瞬にして広がるあたたかさがあり、  
大好きな歌です。

🌱孤独・孤立の課題は制度や施策だ  
けで解決するものではありません。  
地域の中の、ささやかでもあたたか  
な会話やつながりに孤独を和らげる  
希望があると信じます。

🌱府社協の第5次中期計画も最終年  
度を迎えます。だれもが尊厳をもつ  
ていきる社会づくりに努めて参りま  
すので、ご支援のほどお願い申し上  
げます。

もえくさ



T.T

# 社会福祉活動の輪が、すべての人たちにいきわたる年に

## 社会福祉法人京都府社会福祉協議会 会長 小畑 英明

新年明けましておめでとうございます。

はじめに、福祉・介護サービスの提供や各種相談・支援など地域福祉の最前線で日夜御奮闘いただいている皆様

に心からの感謝と敬意を表します。

さて、一昨年より続く物価高騰などにより、社会経済活動や府民の生活は大きな影響を受けています。また、ロシアによるウクライナ侵攻やガザ地区での紛争による市民の犠牲は大変痛ましく、改めて平和な暮らしの上に福祉があることを感じます。新型コロナウイルス感染症が5類の扱いとなったものの、生活に困窮する世帯は依然厳しい状況に置かれたままであり、コロナ禍で顕在化した生活不安、生活困窮や孤立・孤独などの問題が深刻化してい

ます。

また、影響は社会のインフラである

福祉・介護施設の運営も厳しいものになっていきます。また、ICT化等生活を取り巻く環境が著しく変化しており、社会福祉事業もICT化・デジタル化を積極的に進めていくことが重要な課題となっています。

安心した暮らしを支える社会福祉の役割が大きくなっているとともに、人と人の絆や交流や地域のつながり、支え合うことがますます重要になってきていると考えます。

新しい年においても、京都府社会福祉協議会といたしましては、地域で重層的に見守る「絆ネット」づくりや総合的な地域福祉権利擁護システムの構築、温ったか京都・寄り添いワーカー



を中心とした生活困窮者支援、福祉を支える人と組織の支援などに積極的に取り組んでまいります。第5次中期計画の「つながりをいかして、だれもが尊厳をもっていきることができると、社会をつくる」という基本理念のもと、持続可能な達成目標（SDGs）も意識して、人も組織も安心と成長を感じることのできる地域づくりを進めてまいります。また、地域福祉を取り巻く社会経済環境の変化に対応して、指針となる次期中期計画も策定してまいりますと考えております。

そのためには、今まで以上に行政や市町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、社会福祉施設、当事者団体、福祉関係団体、ボランティアをはじめ多様な分野の方々との連携を深めて、

# 活力にあふれ 誇りの持てる京都づくりへ

## 京都府知事 西脇 隆俊

明けましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つづがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更され、世の中が少しずつ日常を取り戻しました。長きにわたり感染防止対策にご協力いただいた府民の皆さま、そして、医療従事者をはじめ関係の皆さまに、心から感謝と敬意を表します。そして、明治以来中央省庁で初となる文化庁の京都移転が実現しました。千年にわたる歴史と文化が日々の生活に息づく京都で国と協力して新しい文化政策を創り上げることは、京都のみならず日本全体の地方創生推進に向けての大きな一歩であり、私たちは着実に新たな歴史の扉を開けつつあります。

「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」。これは、明治時代に活躍した啓蒙思想家・福沢諭吉の言葉です。目まぐるしく社会が変化を続ける現代において歩みを止めることは、後退するに等しいかもしれません。しかし、時代の変化を柔軟に受け容れながら、受け継がれてきた伝統に常に新しい息吹を吹き込む営みは、これまで京都が脈々と続けてきたことであり、これからも京都が担っていくことです。時には歩みを止めて振り返ることも必要ですが、社会が歴史的な転換点を迎えている中、小さな歩みを積み重ねて大きな前進につなげ、新しい価値を常に生み出し続け、活力にあふれ誇りの持てる京都づくりを進めてまいります。

来年には、いよいよ大阪・関西万博が開幕します。新名神高速道路も全線



開通に向け、着実に整備が進められております。私たち京都が得意とする交流の力を発揮して、多くの人、企業、文化の「新しいつながり」を創り、伝統と革新を融合させながら、未来の京都を担う人や企業を育て、文化を創ってまいります。そして、「文化の都・京都」を世界に発信しながら、世界の人たちを京都府全域でおもてなした

いと考えております。今年には辰年です。雲を払い、蒼天に向かつて昇っていく龍のように、私たちに託された京都の未来に向けて、京都府総合計画に掲げた一つ一つのプロジェクトを大きく動かしてまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。

### 令和5年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

#### 京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました！

基本的な人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から人権擁護啓発ポスターコンクールが実施されています。今年度は170校3,849点の応募があり、京都府社会福祉協議会会長賞として、八幡市立男山第二中学校 安村梨愛さんの作品が選ばれました。作品は人権情報ポータルサイト「京都人権ナビ (<https://kyoto-jinken.net>)」でご覧になることができます。



誰一人取り残さない地域共生社会の実現を目指してまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年の干支は、甲辰にあたります。干支の「甲」は草木などが成長していくことを表す意味があり、勢いが増していく状態。「辰」は草木の形が整った様子を意味します。成功という芽が成長し姿を整えていく意味合いがあります。また龍から活気づく年になるとも言われています。皆様とともに進めてきた社会福祉活動の輪をさらに広げ、その輪がすべての人たちにいきわたる年にしていきたいと願っております。

皆様にとりまして、本年が素晴らしい一年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年の御挨拶いたします。

# 京都府知事と

## 社会福祉関係者との懇談会を開催

京都府知事と府内の社会福祉関係者との懇談会を11月16日に京都府庁にて開催しました。京都府の福祉や地域づくり政策に生かしていただくため、地域における福祉課題や現場の声を届け、西脇隆俊京都府知事から京都府政の方針や福祉への思い等を聞かせていただく機会となりました。その概要をお伝えします。

### 社会福祉協議会関係者から

・子ども・子育て支援」「安心できる介護・福祉の実現」「障害者が暮らしやすい社会」と同様に地域福祉課題を解決する上で重要な「地域共生社会の実現」を福祉施策の柱の一つとして掲げていただきたい。

・京都府では、地域福祉権利擁護事業の「非課税世帯」利用者の利用料を全国唯一の施策として公費負担をいただいているが、今後も継続をお願いしたい。また、利用料を全国水準並みに引き上げを行うとともに、専門員、生活支援員の処遇改善が可能となるよう予算措置をお願いしたい。

・総合的な権利擁護システムについて試行的な予算をいただいているが、本格始動していくための支援を是非とも期待している。

70名の欠員となっており、新たな「なりて」確保は喫緊の課題である。全国1万人アンケートでは活動を5.4%しか知らなかった。府としても「なりて」確保に向けた理解促進、広報をお願いしたい。

・身体障害者団体では個人情報保護の観点から新規会員加入案内が難しくなった。新規会員の加入がなく、現存会員も高齢化していく中で、団体としての障害者スポーツ・芸術活動などができなくなった団体もでてきている。

・府内の障害種別団体や各地域の親の会で共通する意見は、親亡き後が大きな課題であること。グループホームの整備など「住まい」や「支援・見守り」が必要である。また障害福祉職員の人材不足により、事業所の運営が困難となる現状もある。

・母子家庭の自立のためには、雇用の拡大とともに、子育てと就業の両立ができるよう公営住宅への優先入居、保育所の優先入所などの充実した子育て支援が必要である。

・精神障害者の家族会運動に必要な集会所の確保、三障害間の各種制度の格差是正、重症医療費の支援などが課題となっている。

・認知症当事者が社会とのつながりを継続できるように、診断直後のピアサポーターが重要である。病院等から診断された人にピアサポーターの場や認知症



懇談会の様子

の人と家族の会を紹介してもらえよう支援をお願いしたい。また常設の認知症カフェが府内各地に広がることを期待している。

・京都いのちの電話は、1982年に開局、40年の歩みが続け、相談員養成講座を受講したボランティアが年中無休の受信を担当している。昨年度は、一年間に17,781件の相談を受けており、相談員研修は欠かせない。

・老人クラブでは会員増強が課題。活動のための移動手段となる福祉バスを利用できない市町村もある。執務室や職員配置も市町村によって差があるため活動の活性化に影響している。

### 西脇京都府知事から

・地域福祉権利擁護事業については、京都府の財政状況は厳しいが、できる限り協力していきたいと思っている。今後も皆さんの協力をお願いしたい。

・今年度から持続可能な権利擁護モデ



出席者一人ずつにコメントする西脇隆俊京都府知事

お願いしたい。

・市町村社協に「温ったか京都・寄り添いワーカー」が配置され、生活困窮者へのプッシュ型の支援や、ソーシャルワーク機能の強化による地域のセーフティネットの充実を図っている。引き続き支援をお願いしたい。

### 福祉施設関係者から

・物価高騰に伴う負担増に対する緊急的な助成金の交付と令和6年度補助金の増高について、国への働きかけをお願いしたい。併せて福祉・介護職員の処遇改善と福祉・介護施設等の経営が継続的・安定的に確保できるよう、基本報酬改定についても強い働きかけをお願いしたい。

・建築資材の高騰により、修繕・老朽改築・建替費用を確保できないので、府の支援をお願いしたい。

・介護職員は全産業平均と比較して、月額8.1万円も低く賃金差が拡大している。人材確保や流出防止のため、教育機関への周知等広報の強化をお願いし

ル事業を開始した。持続可能な成年後見制度の体制整備は重要なので進めていきたい。

・特例貸付を受けた後も生活が厳しい方々に対し、フォローアップ支援をお願いしたい。

・民生委員・児童委員の「なりて」確保に繋がるよう、認知度を上げていく努力を一緒になって頑張っていきたい。

・私自身が6月に厚生労働省に行き、物価高騰分を加味して報酬改定するよう要望したところ。今後とも国に強く働きかけていきたい。

・資材高騰の影響は福祉施設だけでなく、公的施設の建設にも及んでいる。国外の要因の影響が大きく状況が落ち着くのを待たせないが、報酬とも併せて国に伝えていきたい。

・福祉現場の人材確保・定着に繋がるよう、効果的に福祉の仕事の魅力発信を行っていきたい。

・福祉職場におけるロボット化やICT化等の取り組みは必要であると考えている。今後も福祉関係者のご意見を聞きながら進めていきたい。

・多様な働き方推進事業費は、福祉人材認証制度を受けることで可能になる場合もあるため、是非活用してもらいたい。

・身体障害者の方の加入に係る個人情報保護は慎重に取り扱う必要があるため、市町村を交えて対応策を検討させても



参加者の皆さん

たい。

・京都府の「多様な働き方推進事業費補助金」等、社会福祉法人が利用しやすい支援策を引き続きお願いしたい。

・働きやすい職場づくりや福祉現場の環境改善のため、ロボット化やICT化の促進支援をしてもらいたい。

### 社会福祉団体関係者から

・地域に根差した活動を行う民生委員・児童委員が令和5年9月1日時点でも

らいたい。

・障害児者親の会の相談窓口到我々も協力していく。成年後見人などの理解促進と養成もしていきたい。

・ひとり親家庭は行政の支援窓口で連絡する時間がないという声もあった。まだ支援が届かない家庭もあるから、相談のチャンネルを増やすことをしていきたい。

・精神障害者の医療費支援については自治体によって異なるというのは良くないので、是非国でやってもらいたいと厚生労働省に訴えた。また、市町村の相談力の向上に努めたい。

・先進的な自治体の認知症常設カフェ事例を共有して、一つでも増えるようにできれば良いと考える。

・いのちの電話と同様、京都府への相談件数も増えており、厳しい状況だと感じている。地域でも職場でもゲートキーパーの養成に力を入れたいと考えている。

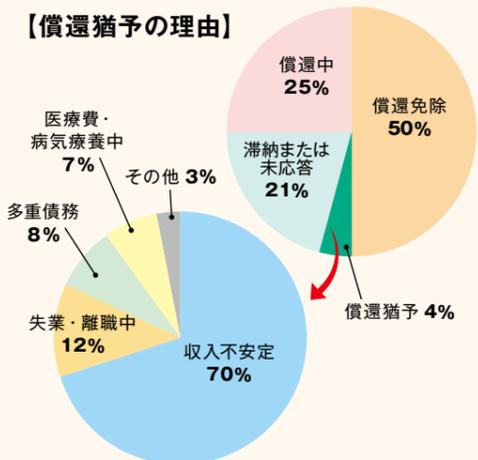
西脇知事から出席者ひとり一人に対して丁寧なコメントをいただきました。京都府社協では、今後とも社会福祉関係者の声を広く集め、京都府と確認する場を定期的に設けたいと考えています。京都府の施策と現場の実践をつなげることで、充実した地域福祉の実現を目指していきますので、皆さま方のご支援ご協力をお願いいたします。

# 生活に困窮する府民を誰一人取り残さない フォローアップ相談・支援（温ったか京都・寄り添いワーカー）

## コロナ特例貸付で生活の 厳しさや孤立・孤独が顕在化

長期にわたって続くコロナ禍、物価高騰による生活困窮世帯に対し、社会福祉協議会（以下、社協）では生活福祉資金コロナ特例貸付や緊急生活物資の配布等の事業を行ってきました。

令和5年1月から特例貸付の償還が始まりましたが、償還中が25%、償還免除が50%、滞納または未応答が21%となっています。償還免除の約95%は、住民税非課税によるもので、その他、自己破産・免責、借受人死亡、生活保



護受給などとなっています。償還猶予についても、減収や収入不安定、失業など経済的な理由が全体の82%を占めています。元々の就労収入が不安定で、恒常的に生活に困窮している状態が続いていた中で、コロナ禍でさらに生活が苦しくなり、貸付を受けても生活状況の好転が難しい世帯が多いことがうかがわれます。

## 生活困窮世帯等への フォローアップ相談・支援

困っている状況や生活困窮は目に見えにくく、また「助けて」と言いづらい方々も多くおられます。

そのような中、府内の市町村社協にフォローアップ相談・支援を行うため、「温ったか京都・寄り添いワーカー」を配置し、一人ひとりの暮らしに寄り添いながらアウトリーチ型で相談・支援を行っています。

コロナ禍で浮き彫りになった経済的困窮や孤立・孤独などの地域生活課題に向き合い、誰一人取り残さない地域づくりを市町村社協とともに進めています。

## レポート..支援の現場から

### つながり続けることを大切に

#### 京田辺市社協



京田辺市社協では、物価高騰対策緊急生活支援と組み合わせ、特例貸付の相談窓口の案内を送ったところ、これまでに150人が来所されました。生活相談では一人ひとりの生活状況を聞きましたが、大変な状況の中なんとか生活されている方が多いように感じます。そのような中で、償還についての相談はなかなかしづらいものです。お話しする際は、第一声として、「暮らしはどうですか。大変なことはないですか。」と生活状況を尋ねるところから始めています。

また、気になる相談者の方には、本人の了解のもと地域の民生委員に同席してもらい、生活状況の聞き取りを行うこともあります。民生委員が本人の生活保護の相談に付き添ってくれたり、日頃の相談相手として見守りをしていただいています。すぐに解決方法が見

つからなくても、どうやって寄り添っていくのかを考えることが社協の役割です。面談に来られても「大きなお世話や」とすぐに帰りそうになる方もおられますが、何とか「つながらない」という気持ちで向き合っています。

社協は、単なる資金の貸付窓口ではありません。「できるか・できないか」で終わるのではなく、しっかりと相談を行い、様々な関係機関と連携できる社協の強みを生かし、本人とともにこれからの生活を支えていくことが大切だと思っています。

## 本人が生きがいを持ち、 孤立させない地域づくり

### 精華町社協



精華町社協の「温ったか京都・寄り添いワーカー」は、物価高騰対策緊急生活物資配布後、借受人に電話をかけて生活状況をヒアリングしました。ヒアリング結果に基づき、生活の困りごとの内容や緊急状況に応じて5段階の区分を設定し、緊急支援を必要とする方、定期的な訪問等の見守りが必要とする方など、個別に支援計画を立てて

継続支援を行っています。

生活相談会では、高齢で自営業が軌道に乗る見通しが立たない方、引きこもり期間の長い家族がいる方、病気が治療が必要な方など様々な相談がありました。相談者本人の気持ちや自身の生活の改善意欲につながらず相談が中断したような場合にも、その人の状況に応じて定期訪問など伴走型の支援を行っています。

経済的な課題を抱えている方についても、収入増を図ることだけでなく、本人がいかに心豊かに暮らせるかを重視し地域の中でつながりを持ち続ける環境づくりが大切です。本人が持っている力を発揮でき、生きがいをもって生活できる地域づくりを進めていきます。



精華町社協での配布物資（一人当たり上記ひと箱×2を配布）

## 相談があれば社協に

### 長岡京市社協

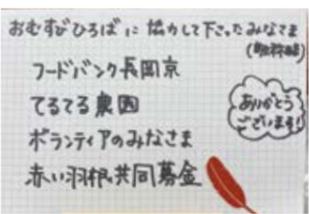
長岡京市の生活困窮者自立相談支援機関と連携し、「福祉何でも相談会」を実施しました。数日にわたり約30人の方が来られ、「どこに相談したらよいのかわからなかった」「自分は償還免除の対象になるのか」という声があり、まだ生活に困窮されている厳しい生活状況があるということがわかりました。その中で、社協のつながりをいかして、「相談があれば、まずは社協に」ということを合言葉に周知していきたくと考えています。

償還猶予中の見守りや生活再建の支援については、「温ったか京都・寄り添いワーカー」を新たに配置し、訪問活動や生活実態の把握に努めています。訪問活動は課題を抱えておられるご家庭に対する支援の入口と考えており、アウトリーチによる丁寧な対応が重要です。また事業を進めるにあたっては、自立相談支援機関と社協が一緒に取り組むことが重要です。

社協では、これまでから生活に困窮している人に対して、貸付よりもまずは生活の相談、支援していくというスタンスで取り組んできました。今後も

しっかりと相談・支援に取り組んでいきます。

地域福祉センターきりしま苑にて「おむすび広場」と相談会を開催しました。寄付をいただいたお米や野菜を活用し、豚汁とおむすびをボランティアの方々で作りました。相談に来られた方や親子連れなど60人ほどにぎわいました。「久しぶりに温かいものを食べた」という声や相談時にはうつむき加減の様子の方の笑顔が見られるなど、つながり続けることの大切さを感じています。地域での孤立を防ぐ取り組みを民生委員や活動団体、関係機関とともに進めていきます。



12月16日おむすび広場（地域福祉センターきりしま苑）

# コロナ明けの時代をどう創るか

この特集は、コロナ禍以前の生活に戻りつつある中、コロナ禍での経験を忘れずつなげていくことをテーマにしています。今号では、京都府社協の若手職員が仕事や取材を通じて得たものと今後の展望について事務局長と話し合います。

## 第4回 コロナ禍での経験・思いをこれから取り組みにつなぐ

### 府社協の職員が当事者から直接話を聞く大切さを痛感

——連載を通じての、みなさんの発見を教えてください。

**長谷川** 私は第1回の若手施設長の方々の座談会で、現場の方々のタフさに頭が下がる思いがしました。皆さん明るく振り返ってくださったのですが、当時は切羽詰まって、お金も労力もかけて「やるしかない」という思いだったことがひしひしと伝わってきました。日頃から施設のなかで、スタッフの皆さんとの関係性を築いていたからこそ、あの過酷な時期を乗り越えられたこともよくわかりました。

**鈴木** 私も、日頃からのつながりや、環境整備の大切さに改めて気付くこと問題は、他の課とつながって打破していくという前向きな力が、組織に生まれてきたように思います。

**山本** 前向きに取り組む力を確かに感じています。コロナ禍ではこれまでに経験したことのない課題が地域に生じました。その課題を解決するために様々な人や団体がつながり、新しい取り組みにチャレンジする機会が増えたことは大きな変化です。

**武田** 特例貸付事業では、これまでとは別のかたちで「助けが必要な人たち」が見えてきました。その結果、「フォロアアップ相談・支援事業」が新しく始まっています。京都だけではなく、日本全国の社協と力を合わせていく必要があります。

### 若手職員が描くこれから

——これからの展望を教えてください。

**鈴木** 児童自立支援施設への取材で、「コロナ禍で飲食店や娯楽施設などが一時短営業をしていた時、家以外のどこに行けばいいかわからなかった」と言った子どもたちの姿が忘れられません。時短営業で居場所の一つがなくなる人がいたことに気付きました。自分たちの仕事の先には「ひとり」を捉えることを忘れてはいけなさと痛感するとともに、目まぐるしく変わる社会の情勢に目を向け続け、その影響を受ける人をイメージすること、そして、「いま

ができました。第2回は地域活動に焦点をあて、木津川市を訪問しました。コロナ禍以前からの関係性があつたからこそ、柔軟に、よりよい形で市社協とNPO法人が協働できたのだと思います。コロナ禍のような非常事態に問題は顕著になること、そしてその問題解決には日頃からのつながりが活きるし、重要であることがわかりました。

**山本** コロナ禍では現場に赴くことができず、アンケートで府内の状況を捉え、事業を進める機会が増えました。今回の取材では、アンケート結果からだけでは捉えきれない現場の状況や思いを聞くことができました。本会では府内の状況を把握し、情報発信をするため調査を実施することが多いですが、直接人々の思いを聞くことも忘れてはいけないことを再認識しました。

自分たちができることを考え、着実に、且つスピード感を持って対応している組織にしていかなければならないと思います。

**長谷川** 連載を通じて、これまで以上に福祉現場の方と関わる機会をいただきました。コロナ禍における福祉現場の「やるしかない」という思いを強く感じ、自分たちの業務の根底が地域・現場の人たちに支えられているのだと再確認しました。本紙のコンセプト「支える人を支える」の言葉のとおり、これまで以上に、地域・現場の人たちと協同的に業務を進めていきたいと思っています。

**山本** 直接会えない中でいかにつながりを絶やさないかということがコロナ禍では大きな課題だったと改めて思います。ZOOM等オンラインツール

「危機下で当事者に話を聞きに行くのは大切。オイルショックのときも、社協職員は各家庭を訪れたと先輩から聞いた。かつてを振り返る武田事務局長。」



「危機下で当事者に話を聞きに行くのは大切。オイルショックのときも、社協職員は各家庭を訪れたと先輩から聞いた。かつてを振り返る武田事務局長。」

第1回～第3回の特集は、京都府社協HPにも掲載しています。ぜひご覧ください。



た時に、家が安全ではない人がいることを、どれだけ本気で想像できていただろうか？ この企画からは自分たちの想像の及ばないところで困っている人たちがいることをとらえたいという姿勢が伝わってきました。これからも『京都の福祉』でこういう取材をしていきたいですね。

### コロナ禍の変化を推進力に

——コロナ禍をきっかけに、変化したと感じることを教えてください。

**鈴木** まず思い付くのは、会議や研修でオンラインが積極的に導入されるようになったことです。急速にオンライン化が進む一方、「会うこと」、「会えること」の大切さを考えるきっかけになりました。

**長谷川** 私はコロナ禍をきっかけに、組織内が活性化したことを感じました。事業はどうしても縦割りになりがちですが、自分の課だけでは解決できない



福祉経営推進課 長谷川

研修課 山本

京都府社協福祉協議会事務局長 武田

地域福祉・ボランティア振興課 鈴木

# 地域で暮らす方に 社協の存在意義を 発信していきたい



京丹波町社会福祉協議会  
生活支援コーディネーター

## 山崎 史陽さん

京丹波町社会福祉協議会に入職して10年目を迎える山崎史陽さん。高校時代に福祉科を卒業し、大学ではバリアフリーなど都市環境学を学んだ後、訪問販売や服飾の製造の仕事を経て、地元である京丹波町へUターンします。

「学生時代に福祉を学んだものの別の仕事に就きましたが、母も姉も看護師で、普段から家の中で福祉の会話が出ていたので、この道に進むことが潜在的にあったのかもしれません」

それでも福祉＝高齢のイメージが強く、社協のことを全く知らなかったと山崎さんは話します。現在は生活支援コーディネーターとして、地域住民の困りごとを聞き、

その課題解決に取り組んでいます。「一番気をつけているのは、あまりでしゃばりすぎないことです。社協がやればすぐにできるのですが、それでは他人事になってしまいます。住民の皆さんが課題に気づき、住民同士のつながりで解決に向けて動くことが理想です。そのためきつかけ作りが役目だと思っています」

学ぶことはまだまだたくさんあるものの、毎日が充実していて楽しいと話します。

「まだまだ社協のことを知らない人がたくさんいます。次世代に向けてはもちろん、地域で暮らす皆さんに社協の存在意義を発信していきたいですね」



### ◆この職場を選んだ決め手は？

地元に戻ってきたときに、知り合いから「人手が足りないから助けてほしい」と言われたのが社協に出会ったきっかけです。

### ◆職場のいいところ

常に話し合いができる関係性ができています。風通しも良く、情報の共有がしやすい雰囲気です。

### ◆休日の過ごし方

小学校の頃からサッカーをしているので、体を動かしてリフレッシュしています。人との交流が勉強の機会にもなっています。

【施設名】(福)京丹波町社会福祉協議会  
【場所】京都府船井郡京丹波町和田中6番地1  
京丹波町瑞穂保健福祉センター内  
【URL】<https://www.kyoshakyo.or.jp/kyotanba/>  
【TEL】0771-86-1444 【FAX】0771-88-0037

## TOPICS①

# 「自然災害におけるボランティア支援に関する協定」を締結 ～JC 京都ブロック協議会と～



### 協定の主な内容

- ①被災地災害ボランティアセンターの支援拠点の整備、運営及び支援活動
- ②被災地災害ボランティアセンターへの人材派遣、資機材の調達・提供及び重機等の活用支援
- ③災害時におけるボランティア活動に関わる情報の共有及び情報発信

公益社団法人日本青年会議所近畿地区京都ブロック協議会と本会は、自然災害発生時の支援活動が迅速に行われるように、「自然災害におけるボランティア支援に関する協定」を令和5年11月7日に締結しました。本会における災害時の被災地支援活動に対し、京都ブロック協議会の地域におけるネットワーク力を生かし、災害時の被災者支援を効果的に進めることを目指し、左記の3項目において連携・協働していきます。今後も多様な団体や機関が協働し被災者支援が展開されるよう取り組みを充実していきます。

## 第11回きょうと地域福祉活動実践交流会を開催

### 「つながりづくりに楽しくチャレンジ！ ～みんなが主役のまち、そして輝く未来へ～」

## TOPICS②

令和5年11月25日に福知山市において、第11回きょうと地域福祉活動実践交流会を京都府市町村社会福祉協議会連合会と共同で開催しました。小地域福祉活動の実践者や社会福祉協議会関係者が福祉課題や日頃の地域福祉活動をテーマに交流し、様々な気づきをもとに地域の福祉活動をさらに推進することを目的としており、府内の地域福祉活動者約500人が参加しました。

NPO法人ハンズオン埼玉の西川正氏から講演をいただくとともに、中丹地域の活動団体である子ども食堂あいこのいえ(舞鶴市)、そうやなあ談義(綾部市)、上紺屋・鍛冶町ふれあいいきいきサロン&ラジオ体操(福知山市)から、工夫をこらしながら活動を続けられている実践報告が行われました。

本実践交流会をとおして、地域活動を続けるためには、楽しさ(あそび)と工夫をする余白・余裕(あそび)が大切であることを確認しあう機会となりました。



## TOPICS③

# 府民交流フェスタで京都の福祉を発信

令和5年度府民交流フェスタが令和5年11月3日に京都府立植物園で開催され、約12,000人が会場を訪れました。

本会も府民会議の構成団体として出展し、市町村社協のキャラクターを活用した釣りゲームを実施。景品に府内の障害者就労支援施設に作成を依頼したシールを配布しました。本会の活動を紹介する展示パネルも設置し、ブースを訪れた約1,000人に楽しみながら福祉にふれていただく機会となりました。

また、リング型の付箋に願い事を書いてもらう「みんなのねがいごとツリー」には多くの実がなりました。身近な人の似顔絵や、入院している家族の無事を祈るもの、平和への願い等が寄せられました。だれもが住みたい地域で安心して生活できる社会であるために、一人ひとりの声を大切にする組織であり続けたいです。今後もこうした地域イベント等の機会を通じて、地域福祉や本会の事業を発信してまいります。



## 京都府社会福祉協議会からのお知らせ

●ご寄贈・ご寄付・助成金ありがとうございました。ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

**寄贈** 「株式会社ツルハホールディングス」様および「クラシエ株式会社」様より、車いす（2台）のご寄贈のお申出をいただき、ご芳志の趣旨に沿い、長岡京市社会福祉協議会、八幡市社会福祉協議会へお届けすることとなりました。



**寄付** 令和5年11月30日『一般財団法人近畿陸運協会』様 250,000円  
令和5年12月5日『中井敏宏』様 10,000円  
令和5年12月13日『小畑英明』様 30,000円

**助成金** 令和5年11月「公益財団法人 京遊連社会福祉基金」様より助成金 500,000円をいただきました。京都府内のボランティア活動推進に活用させていただきます。

### FUKUSHI就職フェア KYOTO

予約不要・入場無料  
随時入退場可・服装自由

介護・福祉の仕事 合同就職説明会を実施します。

**京都府内全域対象** (約100法人が出演 [予定])

**日程** 3月23日(土) **時間** 12:30～13:00 業界研究セミナー  
「介護の仕事ミニ体験」  
13:00～16:00 合同就職相談会

**会場** みやこめっせ(京都市勧業館) 3階  
(市営地下鉄「東山」徒歩約8分/市バス5、100系統  
「岡崎公園・美術館・平安神宮前」下車)

5ブース訪問でQUOカード  
500円分プレゼント!  
(先着100名様)

**対象** 学生(2024年度卒業予定者等) 一般求職者(未経験者も大歓迎)  
※マスク着用のご協力をお願いします。

**問合せ先** 福祉人材課(京都府福祉人材・研修センター)  
TEL:075-252-6297  
<https://fukujob.kyoshakyo.or.jp>



### ハイハイから就職まで まるごと子育てワンダーランド ～きょうとこどもの城づくりフォーラム～

「きょうとこどもの城づくりフォーラム」と「子育て未来づくり100人会議」がコラボレーションして開催されます。“こどもみんなか社会”の実現を目指し、様々な催しを用意しています。たくさんの方の御参加をお待ちしております。

**日程** 1月27日(土) **時間** 11:00～17:00

**会場** あやテラス / 北部産業創造センター(JR綾部駅から徒歩1分)

**講演** 「ひとり」が大切にされる地域であるために  
～ともにある居場所と私たちのつながりから  
生まれる希望と可能性～

空閑浩人氏(同志社大学 社会学部教授)

詳細は中丹子育て未来づくり100人会議HPをご覧ください。  
<https://www.pref.kyoto.jp/chutan/childcare100/index.html>



### 京都府保育園 就職説明会

参加無料・入退場自由  
服装自由・履歴書不要

京都府内全域の保育園・認定子ども園が参加します。保育の仕事に関心のある学生の方はもちろん、一般の方も大歓迎!是非、ご参加ください!

**日程** 3月10日(日) **会場** 京都産業会館ホール 2階「中南室」  
(市営地下鉄「四条」・阪急「烏丸」から徒歩約3分)

**時間** 11:45～受付  
12:15～13:00

**出展** 39法人(予定)

「見て楽しい!知って役立つパネルシアター」  
講師 京都西山短期大学教授  
高橋司氏  
13:00～16:00 就職説明会

**対象者** 保育園・認定子ども園に就職を希望する一般・学生の方

**問合せ先** 京都府保育人材マッチング支援センター  
TEL:075-252-6333  
<https://fukujob.kyoshakyo.or.jp/hoiku/>



### 第4回SKYボランティア活動見本市

ボランティア活動の見学・体験ブース、舞台での上演、成果品の販売等本会も出展します!

**日程** 2月10日(土) **時間** 13:00～15:30  
(開場12:30)

**会場** みやこめっせ(京都市勧業館)  
(市営地下鉄「東山」徒歩約8分/市バス5、100系統  
「岡崎公園・美術館・平安神宮前」下車)

**講演** 「ボランティア、それは心と体の元気の源!」  
～輝くシニアライフの取材現場から～  
羽川英樹氏(フリーアナウンサー)

詳細は公益財団法人京都SKYセンターHPをご覧ください。  
<https://www.kyoto-sky.net>



●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<https://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協  検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。  
©中央共同募金会

## 福祉事業を始めるなら

# 賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度  
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、  
安価な傷害見舞金補償制度など  
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、  
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険ホームページ <https://srm.moushikomi.jp/>

引受保険会社:三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。  
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

版1-10-1111

ボランティア活動には「ボランティア保険」  
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。